



茶人 子 松村

「流されて生きる」風流の人

その人生の師匠クラゲのように気負なく、
茶人なればこそその独自の眼力で日々の偶然を喜ぶ。
「出来るだけ我を捨て流されて」生きる子松村、風流の在り方。

取材協力◎株式会社ヒップランドミュージック
取材・文◎端井山紀子
写真◎ハリイ中西

扇町の公園でいきなり話し始めるチチさん。向かいのグラウンドでは高校のサッカークラブが練習していて、時折ものすごいボールが撮影している階段まで飛んでくる。

「高校の時の野球部がクラブやっててな、ほんでボールがホーン！こっち飛んできたから『逃げる』言われて逃げたら当たってん。」

「おいしーなあ、あいかわらず。」

と、マネージャーの島田氏。

「笑」おれ死ぬか思ったわ！」

一人の浮浪者がふらふらとチチさんのすぐ後ろの階段を上がっていく。カメラへの写り込みを心配したが、その人は無事に階段を上がり視界から消えていった。「ああ、よかった」とほっとしていると言った。「ああ、よかったん？」とチチさん。

「行ってしまわはったん？」とチチさん。

「なんやあ、一緒に映っても良かったのに。」

と言ったその顔は少し残念そうであった。

チチさんはさまれる

チチさんのエッセイ、「それゆけ茶人」や「私ほくらげになりたい」などを読んでいる人は安心していいだろう。ご本人はあのエッセイを読んで受けたあの感じ、ほぼそのままの人だと思っっている。アーティストの作品に触れて、関心を持って本人のキャラクターが想像通りというのは、まあ稀であるが、チチさん本人は嬉しいくらいに想像通り、の人である。

外での撮影を終えた我々は、事務所の1室で取材を始める。ただしそこは予定していた部屋が会議で使えないというので、少しコンパクトなスペースであった。撮影の関係で大変申し訳ないのだが、その一番奥に座っていただけ。チチさんは「はい」と言われるがまま、机とイスの間に身体を滑り込ませるようにしてそこに落ち着かれた。

チチさんのエッセイは、ハートウォーミングであ

ると思う。だが一人で電車に乗っているような時に読んではいけない。吹き出してしまうからだ。その熱心な読者は多いと思われるが、チチさんはゴンチチのチチさんである。まずは音楽のことからとミュージシャンになるきっかけをお聞きした。

「ミュージシャンにはまだなっていないですからね。まだそういう感じないんです。今も趣味でやってみたいな。」

「では本業は？」

「ないです（笑）ただ生きてるだけ（笑）です。」

始めたのも高校からで、そう言っているとチチさんが真りかねたように腰を上げて横に移動した。

「セマいですね、コッチに座ってもいいでしょう。」

座っていたいたいた場所思ったより狭く、チチさんはずつとガマンしておられたのである。気が付かなかったとはいえこれは申し訳ないことをした。チチさん、大変失礼致しました。

ネーミング逸話

場所を変わったせいか、チチさんはちよつとスツキリした表情になられたようである。

「チチさんのネーミングはどこから来たのですか？」
目の表情が分からないので、サンクグラスをかけた人と話すのは苦手だが、チチさんがかけているオーバーのサンクグラスはあまりに顔と一体化していて、その内そういう形の目をした人と話しているような感覚がしてきて楽しい。

「あ、それはね三上さんと出会ったのが今から17年前なんですけど、その時ちょうど『チャリー・パーク』の伝説」という本を借りましてね、で読むとすごい面白い生き方してる、これは一回レコードも聞いてみよう、と。で買うとチチという曲が入って、響きがすごい良かったんで、あ、これはいろんな意味にも取れるし、ということであつたんです。」





回るクラゲの話

ところでクラゲに感動してはまっていく過程を綴った「私はクラゲに」を読んで、実は自分も感動

したことが、という人は多いのではないか。本を読んで私はスグ水族館の水槽で見た青いクラゲを思い出した。それは動けなくなる程キレイだった。「なるでしょう?」

当然だと言わんばかりにチチさんはたまたみかける。ただ感動はしても「あれを飼おう」とはなかなか思わない。それを飼うという粋狂にはまってしまおうのが茶人の茶人たる所以であろう。

「あれが部屋にあるんですからね。言うことなしです。流されて生きてる師匠ですね。」

チチさんの茶人心得の中の「カ条目は風流、つまり出来るだけ我を捨て吹く風に流されて生きることだ。そういう境地に至る何かきっかけがあったのですかしと私は聞いた。

「それはもう、大事な時に決断力がないんでね。」

「あつたんですけどね、さういう時が。」

「具体的に言うとうら。」

「(笑) 言えません。でも会社辞めて音楽一本になる時でも風が吹いてきたというか、音楽側から「そろそろ辞めたらどうですか」と。「辞めて音楽やるんや!」とか、さういうのはないんです。決められないうんです。しよーもないことは、クラゲを飼う!とか、さういうのはものすごく決断するんですけど」

「さう言うとチチさんは私が持参したテープレコーダーを見て、

「これ裏返しになつてるけどライシヨウフア?」と聞いてきた。いやチチさんという人は見るとは

見ている人である。さすが、茶人。ところで、

「チチさん、「私はクラゲ」の最後は本当なんですか?」 あの本の結末は急にドラマチックな話になつていて、エッセイとしてはおかしのである。

「いや、あれは作り話。」

チチさんはちよつと嬉しそうだ。

「さうですね。目が覚めてオツチャン達がしゃべつてるところでは、今まではおと読んできた私は何?て思いました。」

「さうでしょう(笑)。で、あれなんであそこを持ってきたかというところ、えーっこれウソウソウウソ、ほんならもっかい最初に帰るでしょう?」

「ええ。」

「ほんでクラゲ飼つてるのもウソウソウウソか!と、なるけど読んでたらクラゲはほんまや、と。で、えーっつと戻って来るでしょう。それがクラゲなんです。」

「なるほど。」

「さう、すこいんです。」

「おかしな思たんです。」

「思った。やっぱり!」(笑) ええ感じですねえ。あれどの辺で気付くかです。信じてはる人もいてますからね。」

チチさん爆笑トーク

この辺からチチさんの爆笑トークが始まることになる。

「今ね連載してるので「この顔を探せ」というやつってるんですよ。それはね、あの、知ってる人で耳の大きい人がさういう(性格の)人だとするでしょ。今度は街に出て耳の大きい人見つけて追いかけるんです。尾行して。それでその人と性格似てるかやってるんですよ。あれは今ちよつと楽しみなんです。」

「実は今日も取材に出掛けて、というチチさん。」

「アコの人。おるでしよう。さういう人の共通項でないかと思つて。声がぬんなわりと低いんですよ。」

「それで今日阪急の食料品街に探したと言う。」

「パース探してたんですよ、ひたい狭い人。おはあ



「ちゃん、ひたい狭い人多いね。」

「彼で寄ってるんちゃいますか？」

「笑」追いかけてどんな声してるか聞いてたんですよ。

「低いんよ（笑）。いや、それから（昔働いていた）西村屋の得意先のオッチャンでひたい狭い人おつて、刺ってるんよ、ここ。2センチくらい刺り跡あるんよ。」

「夕方になったら背々してくるんちゃいますか？」

「そうそう。刺ったん丸出しになってるわけよ。声、低いんよ、こつつう。あと、近所の果物屋のオッチャンも狭いんよ、ひたい。めーちゃめちゃ低い声してるんよ。近所の食堂で会った時もいきなり（低い）低いタミ声で」「大メシ」言うて！（握拳）」

「笑」笑ってしまいませんか？

「もう、こらえた、こらえた。」

子供のようじゃ

この人の前では「子供のまもの」という言い古された言い回しが温かみのあるリアリティを持つ。さらにその浮き世離れた視点は、別の世界から来た人のような独特の浮遊感を感じさせる。子子さんが実践する風流とは、こういう人と違うことを面白がる視点のことなのだろうか？

「いや、僕の場合、やっぱり眼力というかね。普通やったらどうでもええようなことで面白みを見つけてる？という目を持つてるいうことちゃうかな。で、流されても偶然出会ったものを喜ぶ、とね。皆が抱くものにやない、自分独自の眼力で、何か落ちてくるゴミでも出合いが良かったりとかね。」

「子供のようじゃ？」

「そうやね、小さい時に面白いものでも、大人になるにつれて当たり前になる。それが面白くない。それから脳みそ知識入れてシワ寄せたらいいとか言うけどね、そうかなと。昨日みんな忘れたら、今日のジューズ飲んだら初めてみたいで、それだけで今日、日幸せ、と思える。」

「ああ。」

「だから、ものすごい大っきな目的持ったらつらいでしょ。そこに行き着くまで。」

「まあ、達成感はあるかもしれないですけど。」

「いや、達成したらそれで終わりですわ。手に入れたも終わりやし、入れられなかったら悲しいし。何かええことないような気がするけどね。ムナしいもん。それよりも小さいこと積み重ねてる方がええような気がするね。」

「子供の頃からそういう感覚？」

「そうやね。そうそう、子供の時は夢は大きかったんですけどね、もうちよっと。そやけどだんだん小さなつてったね（笑）。20才くらいもうおじいさん

やったから。」

「20才の頃の夢というのは？」

「遊園地の切符切ったオッチャンになりたいとかね。」

「笑」今日行って今日叶いそうなの。」

「そうそうそう。」

今の若い子とスタンスが似ているかもしれない、と思った。ステイタスや人並みであることに捕われず、自分がしたいことを優先させて生きる。

「今の若い子もさう？」

と子子さん。30~40代の人でもっとはつきり上昇志向が強い人多いでしょう？そう言うとき子子さんは少し悲しそうな顔になった。

「そうですわね。責任感、家族持ったら強いですがね、普通の人は。僕はもう家族がいても自分のことしか考えられへんのね。そやからね、この生き方は人にメイワクかけるんやね。そやけど、ある程度協力してくれる、ということね。」

そう言うとき少し遠い目になってしまわれた。

ロンキチの「黒い蟻の生活」

取ってつけたようではあるが、話はこの後、「1」に発売のアルバムへと流れていく。

「BLACK ANT'S LIFE」のタイトルですが？」

「これはアルバムの中に、曲変わった曲があるんですけど、それを作った時に「このタイトルは黒い蟻の生活やな」と思いついたんですよ。それでアルバムのタイトル悩んでた時に英語にしたらカッコいいんちゃうかなと。」

「あ、一曲だけフンキちゃいますよな。」

「僕はね今回その「黒い」が入ってたら何でも良かったんです。僕の一番好きなんですよ、あの感じは。」

無料体験
受付中!
まずは
お電話を!

経験豊かな
スタッフによる
少人数制レッスン
保険制度の導入で
安全面も
しっかりキープ

もっと冒険、もっとエキサイト。 エクサスタイプカレッジ 9th Anniversary THANKS CAMPAIGN

限定
90名様

エクサスタイプカレッジ梅田9周年記念/
関西全店にてTHANKS CAMPAIGN実施中!

10,000名もの国際ダイバーを世に送り出したエクサスタイプカレッジ。おかげさまで梅田店は、この夏、9周年を迎えることができました。これを記念してサンクスキャンペーンを実施中です。ダイビングライセンスの取得をお考えのあなたに講習料が9,000円に、さらに無料体験をプレゼント!まず無料体験でダイビングの楽しさをエンジョイしてください。アフターファイブや休日のイベントとして、お友達をお誘い合わせのうえお申し込みください。レンタルシステムが整っていますのでテプラでOKです。

ノービスIとは、これからダイビングを始めようと考えているかみさんのためのダイビングトレーニングコースです。これを終了すると、BSACの認定書(Cカード)が取得でき、上級(ファーストクラス以上)のダイバーと一緒にダイビングを楽しむことができます。

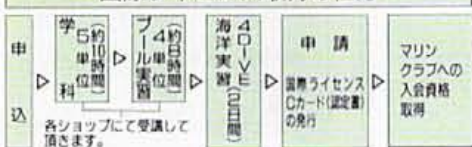
●初級国際ダイビングライセンス取得コース● (ノービスI)

通常講習料
40,000円を ➡ **9,000円に!!**

すでにライセンスを取得している方には、うれしい特典つき!

- マリンクラブの入会金(10,000円)が無料。
 - レンタルシステム、プロショップでの購入割引。
- *料金は全て税抜価格です。

国際ライセンス取得の仕方



京都北大路店

Tel.075-492-6118

〒603 京都市北区小山上総町49-1 北大路ビル3F・4F
(地下鉄烏丸線北大路駅直上)

■ 営業時間 平日12:00~22:00/土曜10:00~22:00
日・祝日10:00~19:00/火曜休

各店でキャンペーン受付中!

梅田inヒルトンプラザ Tel.06-345-1627

なかもす店 Tel.0722-50-4600

奈良学園前店 Tel.0742-43-9387



DIVE COLLEGE

「どういう時に出来たんですか。」
「あれはね、スタジオで練習してる時に出来たんです。」
「蟻見た目とかじゃなくて。」
「そういうの出来ないんですよ。ジュースのイメージでとか言われても、全然(笑) お茶の曲が出来たりするわけよ。」
だがゴンチチというのは本当に曲からだけでは想像のつかないキャラクターである。
「うん、だからこうイメージとか全部つぶしていつてるね。そんな、(お洒落な) そっち側だけにいたら面白くないしね。僕はもう足下ドロドロのさ(こいて)、頭が天回とか、そういう太いのが好きなんですよ。」
「ところでCMも話題ですが苦労やエピソードは?」
「苦労というか恥ずかしいですね。あと北海道のピールやのに九州と群馬で一週間くらいかかって撮ってます。それと、あの歌のサビは僕らが作っていい、というね。シングルにする時はラウという部分付けて、ハウスの部分付けて最後にラウをもう一回付けて、2回コケれるようになってるんです(笑)。」
「苦労されたんですね、と私。」
「ものすごい苦労してるんです。でもね、その恥ず

かしさがたまりませんね。」
最近では、「恥ずかしい」のが「ええ」と思っているという。
その後は鼻毛と耳アカのコレクションの話とゴンザレスさんの友達が徳用マッチの箱一杯に検便を持ってきた話と今度の連載のネタで「雨の日傘をささずに自転車走って走っている人はどうして笑っているのか」を探るため雨の日傘をささず自転車走ってみた話などを話していただいた。いつの間にかカメラマンのハリーさんまで「鼻毛の自撮りありますよね?」と話に加わっている。つまりはそういうことなのである。その気負いのなさ。茶人なればこそその眼力によるチチさんのマイブームは、それだけに終わらず広く派生する波動を持っている。「面白かった。」取材後思わずさう言くと「それでいいんですよ。」とほほえんでチチさんは立ち上がった。

Black Ant's Life
9月1日発売
2,800円(税込) EPIC/SONY

profile

チチ松村

1954年9月6日
1978年
1983年7月25日
1990年9月27日

1993年4月26日
1993年11月1日

1993年12月8日

1994年8月29日
1995年11月4日5日

大阪生まれ
友人の紹介でゴンザレス三上と出会う
アルバム「ANOTHER MOON」でデビュー
ミズクラゲを飼い始める
5匹のクラゲは浮世亭風流1号~4と15号と名付けられる
初の随筆集「それゆけ茶人」出版される
初のソロアルバム「ふなのような女」をゴンザレス三上と同時発売
日頃書き綴っていたクラゲノートが本になるその名も「私はクラゲになりたい」
茶人シリーズ第二弾「旅ゆけ茶人」出版される
シアター・ドラマシティでコンサートチケット8/26より発売

